

相談支援班からのおたよりです

令和5年2月1日発行

支援連携グループ相談支援班



2月は旧暦では如月（きさらぎ）と言います。寒さが一層厳しくなり、さらに着物を重ねて羽織ることが語源だそうです。もうすぐ立春、少しずつ春が近づいてはいますが、まだしばらく寒さとの付き合いは続きそうですね。ご自愛ください。

登校見守りボランティアさんのこと ご存じですか？

毎朝交代で、学校の裏門や正門付近で登校してくる生徒や送迎の車の見守りをしているボランティアさんがいらっしゃることも、ご存じですか？皆さん、岩戸町内にお住いの方で、夏の暑い日も冬の寒い日も、朝早くから立ってくださっています。そのボランティアさんから、いくつかのご意見をいただきましたのでご紹介します。

◆雨の日に傘をささずに登校してくる生徒がいる……傘を持っていない場合もあると思いますが、バス停から学校までの短時間に傘をさすのが面倒くさいという生徒もいるようです。学校にいる間に雨が降り出せば、学校の傘の貸し出しを利用することもできますが、朝の段階では選択肢がありません。事前に天気予報を確認したり、常に折りたたみ傘を鞆にに入れておいたりすることを習慣づけてほしいです。

◆歩きスマホの生徒がいる……最近は大いぶん減ってきたということですが、歩道を歩いているとはいえ、やはり危ないと感じることがあるそうです。歩きスマホはやめましょう。

◆ポケットに手を入れて歩いている……歩きスマホと同様、危険と隣り合わせです。見た目も悪いですよね。寒風にさらされるのは辛いけれど、意識してみることが大切です。

◆歩道をふさいで歩く……登校時間帯に生徒が集中するのは仕方ありませんが、何人かでおしゃべりしながら歩道をふさいで歩いていると、ほかの通行人が迷惑することがあります。他者への気配りやマナーは社会人としても大切なこと。注意していきましょう。

◆朝のあいさつ……元気に大きな声であいさつをしてくれる生徒もたくさんいるそうです。朝のあいさつで、お互いが一日を気持ちよく過ごせます。逆に、下を向いてあいさつもせずに目の前を通り過ぎる生徒には「体調悪いのかな？」「何かあったのかな？」と心配になることもあるそうです。「おはようございます！」の一言、これも習慣づけていきたいですね。

登校見守りボランティアさんの言葉を借りて、これからの学校生活や社会人生活に活かしてほしいことを書いてみました。どれも小さなことです。ちょっと意識すればできることばかりです。そういったことの積み重ねが、きっと将来に役立ちます。明日から取り組んでみましょう。

マナーは社会におけるおもいやい

ルールを守ることで、人は謙虚さや素直さを学び、社会での協調性や心の強さを身につけ、大人になっていきます。

学校でのルールは、集団生活での秩序を守るため、また、個々の危険回避のためにあります。たとえば、髪を染めたりパーマをかけたりすることが禁止と言われるのは、華美になりすぎ目立つことで非合法的な商売に関わる人に声をかけられやすくなり、トラブルに巻き込まれることもあるといった、日常生活で負いかねないリスクをさけるためです。一つ一つのルールにはきちんとした理由があるのです。学校でのルールを守ることは、社会に出た時にルールを守れるように学習をしているのだと考えてほしいと思います。

一方で、自分を取り巻く様々なルールに疑問を持ったり反発したりするのも成長過程の一つです。物事を違った角度で見たり、いろいろな立場で考えたりするきっかけとなるチャンスでもあります。だからと言って、「ルールは破るためにある」と考えるのではなく、「なぜそのようなルールがあるのか」を一緒に考え、結果的に自分の身を守り、社会生活がしやすくなるためなのだと納得していくことが大切です。



特別支援学校のセンター的機能について

何度か話題にしてきた「特別支援学校のセンター的機能」についてのおさらいです。

基本的な考え方としては、地域の小・中学校に在籍している障害のある児童生徒だけでなく、障害のあるなしにかかわらず、すべての支援を必要とする児童生徒について、その教育的ニーズに応じて適切な教育を提供していくために、特別支援学校の持つ専門性を活かしながら支援していくことです。たとえば、学習活動に困り感を持つ子どもたちが何につまずいて、どうしたら解決できるのかを見立てるために学校を訪問して支援を行うことや、小・中学校、高校の教員に対して研修会や学習会を行うこと、学校開放事業、公開講座、卒業生のアフターフォローや就労支援なども「センター的機能」です。

高校にインクルーシブ教育が導入され、小・中学校でもインクルーシブ教育を学校の教育活動目標としているところが増えました。相談支援班では、多様な障害や特性に対応するため、これからも他の特別支援学校とのネットワークを築きながらセンター的機能を推進していこうと考えています。